

サークル Circle クローズアップ 日・光・人 People 人



日光街道杉並木太鼓会

日光街道杉並木太鼓会(以下、太鼓会)は、平成8年の旧今市市市制40周年記念の際に結成されたサークルです。地域の宣伝にもなることから、今市地域のシンボルである杉並木をサークル名に取り入れたそうです。演奏するのは、お囃子などとは違う独特の創作太鼓です。作曲と打ち方の指導はプロにお願いしており、代表曲の「日光街道杉並木」は、杉並木の緑のさわやかさや四季折々の変化、たくましい枝葉の様子をイメージした楽曲です。サークルのメンバーは今市地域の方たちが中心ですが、知人の紹介でこのサークルを知り、宇都宮市から通っている方もいます。太鼓会副会長の荒井さんは「私も、すでにメンバーだった

活動内容 和太鼓の練習・イベント参加
練習日 毎週火・木曜日(午後7時～9時)
練習場所 中央公民館中ホール
会員数 15名
代表・問い合わせ先 湯澤紀弥秀(会長)
☎090-8017-0878

方からの紹介がきっかけで練習に参加するようになりました。今では、妻と娘も和太鼓を始めて、一緒に練習しています」と話してくれました。太鼓会の主な活動は、市内外の障がい者施設や病院、ホテルなどでの演奏です。毎年行われる、日光そばまつりへも出演したことがあります。メンバーの岩永さんは、和太鼓の魅力を感じます。西洋楽器にはない力強さを感じます。その力強さに、自分の心も鍛えられる気がします」と話してくれました。また、会長の湯澤さんは「難しいイメージがあるかもしれませんが、やってみると分かります。誰にでも音を出すことができます。簡単に始められる反面、奥が深いので、のめり込むと楽しくなり、どんどん夢中になります。興味のある方はどなたでも大歓迎なので、ぜひご連絡ください」と話してくれました。何か夢中になりたい方やリフレッシュしたい方、体力をつけたい方は和太鼓を始めてみませんか。



練習中は、皆さん真剣な表情です。

佐々木 友也 さん 土沢 在住

市内で人力車を引いている、佐々木友也さんを紹介いたします。日光を愛する佐々木さんは、「子どものころから好きだった人力車で、日光の良さを伝えたい」との思いで、平成18年に人力車を始めました。小学校から高校までアイスホッケーをやっていた佐々木さん。昔は体力もあり、日光高校(現日光明峰高校)まで自転車を通っていました。人力車を引くにはかなりの体力が必要で、始める前に約2か月間、ジムでトレーニングをしたそうです。その後、福岡県の博多から人力車の先生に来てもらい、実際に人力車を引きながらコースを決めました。「市街地も引けるのですが、道幅が狭く、自動車通行の邪魔になり危険なので、基本的には二社一寺周辺



を引いています。また、今市の市緑ひろばの辺りも引きます」とのこと。今までが一番うれしかったことを聞くと、「三荒山神社での結婚式の際に、私の人力車で神橋の渡り初めをした夫婦が、結婚1周年のときにわざわざ私の所へ来てくれたことです。2人の思い出の一部になることができ、この仕事をし、本当に良かったと思います」と話してくれました。人力車を扱う上での苦勞を、「冬の寒さもありますが、日光は坂が多いので、上りも下りも大変です」と話す佐々木さん。最後に今後の目標を聞くと、「もっと日光についての知識を高め、案内ができればと思っています。そして、何よりもこの仕事を続けることです。50歳代まで引きたいけど、45歳になつたらきついな」と答えてくれました。少年時代からアイスホッケーで鍛えた体で、50歳代といわず、60歳代まで人力車を引き続けてください。



人力車は2人乗り。佐々木さんは軽々と引いていきます。

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

茶柱に期待いっばい腰も伸び 大堀満
高齢の宝と想う笑い皺 岩崎松風
風下に居て真贋を嗅ぎ分ける 塚原トモ工

夫婦でも一票にある主義主張 篠原芳子
初詣ではしゃぐ愛し子肩車 桜沢あき子
手が二本忘れて買った荷の重さ 芳野起代子

俳句 選者 伊藤清

追分の古き道標枯葉落つ 福田美代子
三世代新そばすする夕餉かな 樽谷ムメ
鮮やかに湖畔彩る紅葉かな 齊藤愛華
紅葉に緑が映える岩の松 佐々木清市
生き乍ら端草に枯れてゆく 荒井境子
落葉して大樹の空の広さかな 斎藤てつ

短歌 選者 阿久津伸一

電磁波の充ち溢れいる港間を眼うつろな人ら往き交う 名古屋佳子
迎えたる遺影の微笑む三回忌思ひ出 あらたにそと呼びかくも 金田満寿子
下手はへた下手は下手なりに又楽し 今日心スケッチ描く 椎名藍子
すべもなく鍋削りぬうつし世をふとかへりみる瀬と泥濘 福田勉
可憐なる十月桜うす紅のまばらに咲ける沢観音寺 和田よし
拙くて投稿しばしためらふも詩かねば種は生えぬと思ひ 荒井境子

募集しています！

紹介したい方やサークルの情報をお寄せください。
※掲載にふさわしくない活動内容が含まれている場合、紹介をお断りすることがあります。
また、皆さんからの短歌・俳句・川柳の投稿作品もお待ちしております。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、応募してください。
連絡先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21) 5135・FAX(21) 5109